

校長室だより 2025年度1月号その2



## Be Creative

### 続報 合格おめでとう！



### —私が大学で取り組むこと—

杉本君、池野君のインタビューを行っている最中に、櫻井君、渡部さん、続けて冬休みに入り、辻さんの公立大学合格のニュースが入ってきました。彼らが大学で何を研究したいと考えているのか、「ぜひ、後輩たちに伝えてほしい。」この私の要請に応え、3人が後輩たちのために文章を寄せてくださいました。



#### 名古屋市立大学人文社会学部現代社会学科 櫻井春瑠君(吹奏楽部)



私は名古屋市立大学で、労働社会学とジェンダー論に関する専門的な学びや研究を展開したいと考えています。人文社会学部現代社会学科では、社会の中で当たり前になっている仕組みや、良いことだとされている制度を批判的にとらえ直して議論し、検証する力が求められます。入試科目の一つであるプレゼンテーションでは、そのことを念頭に置き、企業におけるポジティブ・アクション等の男女平等実現を目指して定めた政策と、根強く残る性別役割分業観と家父長制について、大企業と中小企業それぞれのパターンから分析し、問題提起しました。本番では、面接官からも感心していただけるレベルまで発表を仕上げることができました。これは、資料作成等を手伝ってくださった担任の榎原先生と、志願理由書、小論文添削や、面接練習をしてくださった石崎先生や松永先生のお力添えなしでは成し得なかつたと感じています。春からレベルの高い環境で専門的に学べることを、心から楽しみにしています。まだ漠然としか考えていませんが、大学院でさらに研究していくことも視野に入れています。また、大学院進学、就職活動のどちらを選択するにせよ、英語は不可欠なツールだと認識しているので、TOEIC等の資格取得にも力を入れていく予定です。

#### 愛知県立大学教育福祉学部教育発達学科 渡部知優さん（女子サッカーチーム）



私は将来、小学校教諭として、すべての子どもが安心して学べるインクルーシブな教育環境をつくっていきたいと考えています。その思いから、愛知県立大学でインクルーシブ教育について学び、研究していきたいと考えています。愛知県立大学にはインクルーシブ教育を研究されている先生がいらっしゃり、その先生のもとで、一般的な教育の学びに加え、発達障がいのある子どもや心の不調を抱える子どもなど、さまざまな特性をもつ

子どもたちの心理について理解を深めていきたいと考えています。また、小学校の授業見学や教育実習などの実践的な学びを通して、学んだ知識を臨機応変に活用できる力を身につけていきたいと考えています。受験では、小論文と面接がありました。小論文は約4か月間練習を重ね、石崎先生に多くのご指導をいただきました。面接についても、多くの先生方に指導していただきました。志望理由は本番直前までうまくまとまらず、何度も書き直す日々が続きましたが、先生方からの助言を通して、最終的に自分にしか語れない経験や思いを言葉にすることができます。受験までの間、苦しく感じることや逃げ出したくなることもありましたが、たくさんの方々の支えがあり、合格することができました。

## 沖縄名桜大学国際学部国際観光学科 辻 蒼空さん（吹奏楽部）



私は将来観光業に携わりたいと考えています。私は幼少期に家族旅行で沖縄を訪れ、その際に他の観光地とは違うおもてなしの心を感じたことをよく覚えています。そして、高校の修学旅行で再度沖縄に訪れた際、沖縄観光の根源には「ゆいまーる」の精神があり、それが沖縄ならではのおもてなしの源だと実感しました。

また、大学入学後は、沖縄土着の地域における望ましい観光のあり方や、観光復興及び観光政策評価をテーマに研究をしておられる大谷健太郎先生の元で「人と人の輪を核とした観光」について学びを深めたいと考えています。加えて、海外インターンシップに取り組むことで経験を積み、実践的な学習によって知識だけでなくスキルも身につけ、協定大学との交換留学で異文化対応力を向上させ、言語スキルを磨いていきたいです。受験までの間、的確なアドバイスと暖かい言葉をかけてくださった先生方への感謝の気持ちを忘れず、将来の選択肢を広げられるよう、有意義な大学生活を送っていきたいと考えています。

## 雑感—Carpe diem 今日を摘め

本当に偶然であったが、暮れに「しゃべりたりない夜は」という番組を観る。俳優の木村佳乃が漫画家のヤマザキマリ、脚本家の大森美香と何と言うことない話をしゃべりつくす。ヤマザキと大森は初対面ながら共通の友人の木村を間に挟んで、まさにしゃべりつくす。最後に木村佳乃が自分の祖母の言葉を紹介する。「うちのおばあちゃんがよく言っていた。今日と言う日は今日しかないから、やりたいことは全部やりつくせ。」イタリア在住のヤマザキがそれに素早く反応する。「それはイタリアにおいても有名な格言がある。Carpe diem（カルペディエム）その日を摘め。今日と言うこの日を大切に生きよっていうことだね。」気になることはすぐにググってみる。出てくる、出てくる。知らぬのは自分だけで、ヤマザキマリの言う通り、これは有名な格言だった。紀元前1世紀の古代ローマの詩人ホラディウスの詩に登場する語句のこと。英語なら「Seize the day」となる。なかなか先が見えず、日々のことで振り回されている自分であるが、まずはやるべきことはその日のことに集中するということでいいのかと少し自分を慰めてみたが、やはりそれだけではだめだろうとも思う。その日一日を生き抜くことが、未来につながる生き方となりたいものである。進路を切り拓く3年生の生徒らの取り組みに自分も学べということだ。

